

岡山市・洛陽市の友情のあゆみ

岡山市市民局国際課

1 はじめに

岡山市と中華人民共和国河南省洛陽市は、1981年（昭和56年）に友好都市締結をして以来、幅広い分野での交流を積み重ね、2011年（平成23年）に30周年の節目を迎えました。

岡山と中国は、奈良時代に岡山出身の吉備真備きびのまきびが、遣唐使として2度にわたって洛陽市を訪問するなど古くからの縁があり、また、当時の洛陽市の都市部の人口が岡山市とほぼ同規模だったなどの共通点もあったことに加え、岡崎嘉平太氏おかざきかへいたをはじめとする先人たちのご尽力があったこと、そして、岡山市訪中団や岡山市議会訪中団が相次いで洛陽市を訪問したことなどを契機に交流が深まり、1981年（昭和56年）4月6日に友好都市締結に至りました。

2 これまでの交流

洛陽市とは友好都市締結以来、代表団や市民訪問団の相互派遣や双方の都市で語学や技術を学ぶ技術研修生の相互派遣、そして、子どもたちの相互ホームステイなど、行政だけでなく民間の方々や子どもたちも参加して、教育、文化・芸術、スポーツ、医療・福祉、環境など幅広い分野で交流の輪を広げてきました。

このような密度の濃い交流を続けてきた岡山市と洛陽市が、友好都市締結30周年の節目を迎えるにあたり、これまでの交流の歴史を振り返るとともに、未来を担う子どもたちの交流や経済分野での連携強化など、両市にとってより実り多いものへと発展させる契機とすることを考えました。そして、民間団体や教育関係者等からなる「岡山市・

洛陽市友好都市締結30周年記念事業企画検討会議」を立ち上げ、「未来につながる実りある交流を求めて」をテーマに、産官学が連携してさまざまな記念事業を企画しました。

3 30周年記念事業

岡山市立半田山植物園では、毎年4月に、洛陽市から寄贈された洛陽牡丹ぼたんが美しく咲き誇ります。その洛陽牡丹を子どもたちに思い思いに描いてもらう「洛陽牡丹写生大会」を岡山市国際交流協議会ならびに岡山市日中友好協会との共催で開催し、30周年記念事業の口火を切りました。10月には、同園に洛陽牡丹の苗を寄贈し、牡丹園の充実を図りました。洛陽市のシンボルとも言える牡丹の花を通じて、子どもたちや市民の皆さまに友好都市・洛陽に親しみを感じてもらうことができました。

8月には、洛陽市副市長をはじめとする「代表団」や小・中学生からなる「教育訪問団」、旅行関係者などからなる「観光PR団」など、総勢100人もの訪問団が来岡しました。友好都市締結30周年記念式典のほか、岡山市民も含め、総勢162人



岡山市・洛陽市友好都市締結30周年記念式典の様子



教育訪問団サッカー交流の様子

が参加しての歓迎レセプションを開催し、節目の年とともに祝い、交流の歴史を振り返るとともに、これからの末永い友情を確認しました。

「代表団」は、当日開催されていたおかやま桃太郎祭りにも参加し、うらじゃ踊りの輪に入るなど、岡山市民との交流を深めました。また、「教育訪問団」の小・中学生は、岡山市内の小・中学生と音楽やサッカーを通じた交流を行ったほか、花火大会やうらじゃ踊りを観覧しました。また、「観光PR団」は、市内の旅行会社を訪問し、洛陽市の観光PRを行うなど、それぞれの目的に応じた交流を行いました。

9月には、市民参加者を含む総勢50人の岡山市民友好親善訪中団を洛陽市へ派遣しました。滞在中に洛陽市政府を表敬訪問したほか、歓迎レセプションに参加し、交流を深めました。また、インバウンドを目的とする岡山市のシティプロモーション事業として、洛陽市の旅行会社を対象とした観光セミナーを開催し、岡山の魅力をPRしました。

この訪問団には、「高校生スタディツアー」の参加者も含まれており、派遣された生徒たちは、洛陽市内の家庭にホームステイしながら、現地学校での交流授業などに参加しました。

11月には、「世界調査から見た中国の食生活と健康・長寿」と題した記念講演会を岡山市で実施しました。この講演会は、岡山大学と洛陽市の河南科技大学の交流協定締結ならびに岡山市日中友

好協会設立30周年記念も兼ねて、武庫川女子大学やもりゆきおの家森幸男氏とフリー映像作家の重森貝崙氏しげもりばいろんを講師に招き、岡山市国際交流協議会、岡山大学、岡山市日中友好協会との官民学連携で開催しました。約200人の聴衆は、映像を使用した非常にわかりやすく興味深い講師2人の講演に聴き入っていました。

4 おわりに

2011年度は、まさに洛陽市との友好都市締結30周年記念事業に明け暮れた1年でした。そしてそれは、30周年という記念すべき節目の年を迎えるにあたって、これまでの交流の歴史を振り返るだけではなく、単なる友好交流にはとどまらない未来を見据えた交流のあり方を模索し続けた1年でもありました。

次代の交流の担い手となる青少年の交流や、洛陽市での観光セミナーの実施といった交流は、まさに、両市にとって実りの多い、未来につながるものであったと思います。

一方、昨年度の岡山市の市民事業仕分けでは「国際友好交流都市との交流事業のあり方」が仕分テーマに選定され、委員からやり方の改善を求める意見を多くいただきました。今後は、官民の役割分担、市民参加・市民協働のあり方等について整理するとともに、都市ごとに重点分野を絞った交流に取り組む必要があります。洛陽市との間では、大学間連携を軸とした教育分野の交流や、民間で活発化している医療分野の交流に重点を置くなど、今後の両市のますます実りある交流の進展に取り組んでいきたいと考えています。